

日交研シリーズ A-799

平成 31 年度自主研究プロジェクト

「夜の生活活動を支え地域活性化に資する都市と交通のあり方に関する研究」

刊行：2021 年 3 月

夜の生活活動を支え地域活性化に資する都市と交通のあり方に関する研究
City and Transportation for Safe, Secure and Comfortable Nighttime Activities
and Community Activation

主査：大森 宣暁 (宇都宮大学)

Nobuaki OHMORI

要 旨

24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本プロジェクトメンバーらは、これまで土木計画学研究発表会において、夜の都市計画に関するセッションを企画し、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

宇都宮市の繁華街に立地する複数の飲食店を対象にバリアフリー調査を実施した結果、特に車いす使用者が店舗を利用する上で、駐車場、店舗入り口、通路、客席、トイレ、店員のサポート、そして情報提供が重要であることを確認した。地域コミュニティにおけるスナックの役割について議論を行い、京都の歓楽街の都市デザインに関する研究会を開催し、通りの品格と賑わいを創出するデザイン誘導の重要性を認識した。首都圏居住者に対して、飲酒活動の実態と意識に関する Web アンケート調査を実施し、性・年齢、居住地等の個人属性と自宅内外の飲酒活動の選好や満足度向上のための都市・交通に関する要因等を明らかにした。

キーワード：夜、活動、都市、交通

Keywords : nighttime, activity, city, transportation